

火災における一酸化炭素（CO）の危険性

火災の死因の約 4 割を占める一酸化炭素中毒（CO 中毒）

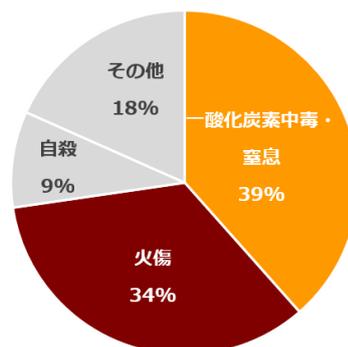
ご存じですか？ 実は、火災による死因の約 4 割が CO 中毒であるというデータがあります。消防庁が毎年集計されている消防白書のデータですが、この約 4 割という数字は 10 年以上全く変わっていません。火災における死亡事故と聞いたら、火傷や煙に巻かれて亡くなると思っていませんか？

では、なぜ CO 中毒での死者数がこんなに多いのでしょうか？

それには 3 つの大きな理由があります。

- ① CO は非常に毒性が強いガスで、わずか 1%の CO を吸引しただけで 1~2 分で死に至る
- ② CO は無色・無臭で、人の五感では気が付かない
- ③ CO 中毒になると、意識はあっても体が動かなくなり、逃げ遅れる

建物火災の死因別死者発生状況



出典：令和2年版 消防白書

こんなに危険なガスが、火災の際にこっそり忍び寄り、多くの命を奪っているのです。CO は別名「サイレントキラー（影の殺人者）」とも呼ばれています。

火災以外にもガス機器や石油機器の不完全燃焼燃や、木炭等の炭火からも発生します。

それではなぜ CO ガスで中毒になるのでしょうか？

その理由は、CO は赤血球中のヘモグロビンとの親和性が酸素の250倍と高く、このため CO を吸入すると血液の酸素運搬能力が下がることにより中毒を引き起こすからです。

CO 検知機能の付いた住宅用火災警報器

住宅用火災警報器には、CO 検知機能の付いた火災警報器もあります。住宅用火災警報器は、消防法にて 2011 年からすべての住宅への設置が



義務化されました（設置場所は、市町村条例により異なります）。一般的な火災警報器は、煙を検知して、火災をお知らせします。CO 検知機能付きの火災警報器は、煙センサーに加え CO センサーを搭載しているので、プラスアルファの安心が得られます。また、CO は実は火災だけでなく、ガス機器の故障による不完全燃焼や練炭を使った際にも発生する恐れがあるので、そのような万一の場合にも安心です。

オリジナル画像（無断転載禁止）